

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日は五節句の一つ上巳の節句は「桃の節句」「ひな祭り」と呼ばれて親しまれている日だ。わが家でもひな人形を飾り子供の健康へ

の願いや成長を見守ったものだが、子供が成人になると飾らなくなると箱に入ったまま。同じような家庭も多いはずだ。このような文化資源を活用している地域に想いを馳せてしまおう。

気象庁は、向こう3カ月の関東・甲信地域の天候予報を発表した。天候は、どの月も同様に「天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう」との予報だ。例年より少ない積雪量に春到来の期待が高まってしまおう。

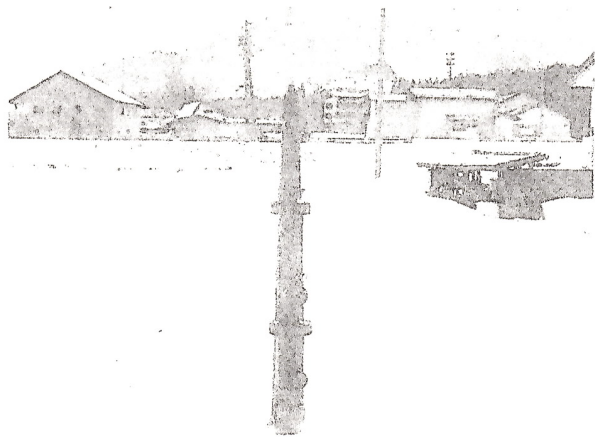
補者の選考にも年々移住者の名前が多くなってきた。移住して存在が増してきているのが実感できる。移住者の多くの世帯が、子育て世帯でもあるので各種の支援の必要性

を重く考えるべきだ。地方移住を支援する認定NPO法人ふるさと回帰センターが都道府県別の移住希望地ランキングを発表した。長野県は前年の4位から2位と順位を上げた。その理由として

地域の魅力発信に「ひらがな」の活用を

「自治体が入入れ体制を整え、そこに移住して満足している人が情報発信して新たな移住希望者が生まれる好環境が起きている」と分析している。移住した皆さんの情報発信が大北地域に大きな力に

なっているという願うばかりだ。移住された方に地域の課題を尋ねると多くの人が「地域内は家賃が10万円を超え物件が多く、生活が成り立たない」との声が印象に残る。漢字よりひらがなの



消防団員の活動軽減にも消火栓多段式の活用が求められている。

方がしっくりくる言葉がある。例えば「ふるさと」。「やわらかい文字から、ぬくもりが伝わってくる。遠い故郷

を思えば心に浮かぶ「おふくろ」「かあさま」「もてうだろ。サトウハチローの詩集「おかあさま」に「母

という字を書いてごらん。やさしいように見えてむずかしい字です。恰好のとれない字です」と。書くことゆがんだり、やせすぎたり、太りすぎたりと、母の表情が大きくかわってしまう。だが、ひらがなで「おふくろ・おかあさん」と書くと誰もが優しい母の顔を思い出すのではないだろうか。外国を意識して英文などの横文字表記が主流になりがちだが、「ひらがな」文化を大切にしたい情報発信がきかないかと考えさせられた。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)